

証券コード 3591  
平成23年6月3日

株 主 各 位

〒601-8530  
京都市南区吉祥院中島町29番地

株式会社ワコールホールディングス

代表取締役社長 塚 本 能 交

### 第63期 定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。  
このたびの東日本大震災被災地の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。  
さて、当社第63期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますと、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、平成23年6月28日（火曜日）午後5時30分までに到着するようご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

- 日 時 平成23年6月29日（水曜日）午前10時
- 場 所 京都市南区吉祥院中島町29番地（JR西大路駅前西入）  
当社本社ビル 10階ホール  
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）
- 株主総会の目的事項
  - 報 告 事 項
    - 第63期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで） 事業報告の内容、連結計算書類の内容  
ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
    - 第63期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで） 計算書類の内容報告の件
  - 決 議 事 項
    - 第1号議案 取締役8名選任の件
    - 第2号議案 監査役2名選任の件
    - 第3号議案 役員賞与支給の件
- 議決権の行使等についてのご案内
  - (1) 代理人による議決権行使  
株主総会にご出席いただけない場合、議決権を有する他の株主1名を代理人として株主総会にご出席いただくことが可能です。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。
  - (2) 添付書類および株主総会参考書類記載事項を修正する場合の周知方法  
事業報告、連結計算書類および計算書類ならびに株主総会参考書類に記載すべき事項を修正する必要がある場合は、修正後の事項を当社ホームページ（<http://www.wacoalholdings.jp/>）に掲載いたしますのでご了承ください。

以 上

- ~~~~~
- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます（午前9時に受付を開始いたします）。
- ◎本株主総会の決議結果につきましては、決議通知の送付はせず、株主総会終了後、当社ウェブサイト（<http://www.wacoalholdings.jp/ir/soukai.html>）に掲載させていただきますので、ご了承くださいようようお願い申し上げます。

## 報告事項に関する添付書類

### 事業報告 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

#### (a) 事業の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国経済の成長をはじめとした世界経済の回復基調や政策効果もあって持ち直しつつあったものの、雇用情勢は依然厳しく、円高や政策効果の反動、また世界経済の減速による景気の先行き懸念、さらには東日本大震災の影響など下振れリスクも含んで推移しました。

このような経営環境の中、当社グループは昨年4月より新たな中期経営計画をスタートさせ、主力事業会社である株式会社ワコールを中心に、国内事業の構造改革による収益力向上と中国を中心とする海外事業の積極的展開による成長力強化に取り組みました。

これらの結果、当社グループの当連結会計年度の業績は、株式会社ワコールの売上は前期を下回りましたが、米国や中国事業において売上が前期を上回ったことや、昨年より完全子会社となった株式会社ルシアンが連結されたこと、株式会社七彩の売上が回復したことなどにより、売上高は前期を上回りました。営業利益は、株式会社ワコールにおいてコスト削減や経費の圧縮に努めたことや、株式会社七彩の収益が改善したことなどにより、前期を上回りました。

・売上高	1,657億26百万円	(前期比	1.5%増)
・営業利益	42億55百万円	(前期比	11.7%増)
・税引前当期純利益	37億39百万円	(前期比	19.7%増)
・当社株主に帰属する当期純利益	26億15百万円	(前期比	3.6%増)

オペレーティング・セグメントの実績を示すと次のとおりであります。

#### ①ワコール事業 (国内)

株式会社ワコールのワコールブランド事業本部につきましては、キャンペーン商品の明快なベネフィットが受け入れられたことやワコール人間科学研究所が昨年4月に発表した研究成果「からだのエイジング (加齢による体型変化)」に基づくプロモーション活動も奏功したことにより、基幹商品であるブラジャーが好調に推移しました。一方、新機能ボトムスタイルサイエンス商品群は苦戦し、ガードル・パンツ全体では前年を下回りました。また季節商品の肌着についても他社商品の影響を受け、前年を下回りました。さらに震災の影響により3月期の売上が低迷したこともあり、主力のワコールブランド事業本部全体の売上は前期を下回りました。

ウイングブランド事業本部につきましては、得意先の在庫規制の影響が強く納品が抑制される状態が続きました。ブラジャーの店頭売上は好調に推移したものの、肌着は量販店などのプライベートブランド商品や他社商品の影響を受け、ガードル・パンツも苦戦したことにより、両アイテムともに前年を下回りました。メンズインナーはシニア世代向けブランドや新ブランドの展開が拡大したものの、基幹商品であるスタイルサイエンス商品群が苦戦し、前年を下回りました。これらの結果、ウイングブランド事業本部全体の売上は、前期を下回りました。

S P A（製造小売）事業部につきましては、直営店「AMP H I（アンフィ）」において値頃感のあるブラジャーが好調に推移しました。また、アウトレットモールで展開する「ワコールファクトリーストア」は一部で震災の影響があったものの、全体としては堅調に推移したことにより、S P A事業部全体の売上は前期を上回りました。

株式会社ワコールの子会社でS P A事業を行う株式会社ウンナナクールでは、既存店の売上が前年を下回りましたが、新規出店の効果もあって、全体の売上は前期を上回りました。

ウエルネス事業部につきましては、「C W - X（シーダブリューエックス）」がランニングブームやトレーニングブームの需要を積極的に捉えたことにより好調に推移しました。また、機能性を重視したビジネスパンツも交通広告やウォークキャンペーンの効果もあり好調に推移しました。これらの結果、ウエルネス事業部全体の売上は前期を上回りました。

通信販売事業部につきましては、カタログ販売が初夏の冷夏と残暑の影響によるシーズン立ち上がりの不振と震災の影響もあって売上は前年を下回りましたが、インターネット販売は、インターネット限定商品がヒットしたことなどにより、好調に推移しました。これらの結果、通信販売事業部全体の売上は前期並みとなりました。

このようにS P A事業やウエルネス事業などは好調に推移したものの、主力事業であるワコールブランドやウイングブランドが前期を下回ったことなどにより、株式会社ワコール全体の売上は前期を下回る結果となりました。一方、利益面につきましては、当期より取り組みを開始した構造改革による売上利益率の改善や経費削減が奏功し、営業利益は前期を上回りました。

・売上高	1,108億56百万円	（前期比	2.7%減）
・営業利益	56億20百万円	（前期比	23.7%増）

## ②ワコール事業（海外）

海外事業（2010年1月～12月）につきましては、米国事業は個人消費の回復もあり米国経済が堅調に推移した中で、シェア向上と商品展開の強化、さらに周辺国の売上拡大に積極的に取り組みました。売上面では値頃感のあるブラジャーや補整機能のあるボトム商品が好調に推移し、また、インターネット販売も開始したことなどにより、売上は現地通貨ベースでは前年を上回ったものの、為替変動の影響により前期を下回りました。一方、利益面では売上の増加に加え、原価低減に伴う売上利益率の改善によって、営業利益は前期を上回りました。なお、当期における米ドルの為替レートは87円（前期92円）となっております。

中国事業につきましては、中国経済が不安定要素を含みながらも拡大を続ける中で、内陸部を中心とした積極的な店舗展開に取り組みました。ブランド認知が十分に浸透していないこともあり、新規店舗の売上は当初の計画を下回ったものの全体の売上では前期を上回りました。利益面では出店費用やプロモーション費用の増加などにより、営業利益は前期を下回りました。

・売上高	200億52百万円	(前期比	6.1%増)
・営業利益	13億21百万円	(前期比	0.7%減)

### ③ピーチ・ジョン事業

株式会社ピーチ・ジョン（2010年3月～2011年2月）につきましては、通信販売は、コスメ系のビューティカタログを除き受注が低迷したことにより、売上は前年を下回りました。国内直営店は、前年に比べて店舗数が減少したことなどにより前年を下回りました。海外直営店は香港に出店している2店舗をはじめ、上海に5店舗オープンし積極的拡大に取り組みました。しかしながら、国内事業の低迷の影響が大きく、ピーチ・ジョン事業全体の売上は、前期を下回りました。利益面ではカタログ発行部数の削減や広告媒体の見直しなど効率化に取り組みましたが、売上の減少と構造改革による事業所統廃合や希望退職にかかる費用の増加などにより営業損失が生じました。

なお、翌期以降の5ヵ年について震災の影響も加味して事業計画を作成し、ピーチ・ジョンの公正価値を再評価した結果、17億72百万円の無形固定資産の減損損失を計上しています。

・売上高	117億11百万円	(前期比	11.4%減)
・営業利益	△ 30億24百万円	(前期は営業損失13億25百万円)	

### ④その他

株式会社ルシアンにつきましては、前期中に不採算事業を整理し、経営資源の選択と集中に取り組みました。主力の内ナーウェアやアウトナーウェアを展開する製品事業は主力売り場である量販店の競争激化の影響により前年を下回りました。アートホビー事業は刺繍糸やパッチワーク用ソーイング生地が堅調に推移し売上は前年並みだったものの、レース素材を扱うマテリアル事業の売上は前年を下回りました。ルシアン全体では前期の連結対象期間が8ヵ月だったのに対し、当期は当会計年度の業績すべてが連結対象になったことにより売上は前期を上回りました。利益面については、不採算事業の整理や経費削減が奏功し、営業利益は前期から改善しましたが、退職年金の積立不足などにより営業損失が生じました。

マネキンの製造販売やレンタル、商業施設の設計や施工を行う株式会社七彩につきましては、物販が好調に推移し、マネキンレンタルや主要得意先である百貨店の売場改装工事の受注も順調だったことにより、売上は前期を上回り、利益面においても経費の見直しを徹底したことで営業利益は前期から大幅に改善し、黒字となりました。

・売上高	231億7百万円	(前期比	34.0%増)
・営業利益	3億38百万円	(前期は営業損失7億37百万円)	

オペレーティング・セグメント情報

(単位 金額：百万円、比率：%)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ビーチ・ジョン事業	そ の 他	計
売 上 高	110,856	20,052	11,711	23,107	165,726
前 期 比	97.3	106.1	88.6	134.0	101.5

(注) 1. セグメント情報は、米国財務会計基準審議会会計基準書280「セグメント報告」を適用しております。

2. 各事業の主な製品

ワコール事業 (国内) … インナーウェア (ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、  
アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット、飲食・文化・サービス他

ワコール事業 (海外) … インナーウェア (ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、  
アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット他

ビーチ・ジョン事業 … インナーウェア (ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、  
アウターウェア、その他繊維関連商品他

その他…………… インナーウェア (ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、  
アウターウェア、その他繊維関連商品、マネキン人形、店舗設計・施工他

(b) 資金調達状況

増資・社債発行による資金調達はありません。

(c) 設備投資状況

当連結会計年度において実施しました設備投資の総額は、33億33百万円であります。これらは、主に、国内子会社における情報システム投資及び各ビルの維持補修工事に関するものであります。

## (2) 財産及び損益の状況の推移

### ①企業集団の営業成績及び財産の状況の推移

(単位 金額：百万円)

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	第 60 期	第 61 期	第 62 期	第 63 期(当期)
	金 額	金 額	金 額	金 額
売 上 高	165,761	172,276	163,297	165,726
営 業 利 益	13,540	10,129	3,810	4,255
当社株主に帰属する 当 期 純 利 益	4,966	5,230	2,524	2,615
1株当たり当社株主に 帰属する当期純利益	35円14銭	36円75銭	17円86銭	18円53銭
総 資 産	241,619	213,486	223,387	215,345
株 主 資 本	185,113	165,873	171,630	166,967
1株当たり株主資本	1,291円41銭	1,181円00銭	1,215円52銭	1,185円44銭

- (注) 1. 上記の連結経営指標は米国会計基準に基づく金額であります。このため、経常利益に代えて営業利益を記載しております。  
2. 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は、保有する自己株式数を除く期中平均発行済株式数により算出しております。  
3. 1株当たり株主資本は、保有する自己株式数を除く期末発行済株式数により算出しております。

### ②当社の営業成績及び財産の状況の推移

(単位 金額：百万円)

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	第 60 期	第 61 期	第 62 期	第 63 期(当期)
	金 額	金 額	金 額	金 額
営 業 収 益	10,863	6,171	6,968	7,662
経 常 利 益	6,937	2,093	3,106	4,000
当 期 純 利 益	2,123	1,262	2,887	3,432
1株当たり当期純利益	15円02銭	8円87銭	20円39銭	24円30銭
総 資 産	150,081	146,127	146,898	146,121
純 資 産	147,562	141,537	142,459	142,451
1株当たり純資産額	1,029円44銭	1,007円35銭	1,006円55銭	1,010円29銭

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、保有する自己株式数を除く期中平均発行済株式数により算出しております。  
2. 1株当たり純資産額は、保有する自己株式数を除く期末発行済株式数により算出しております。

### (3) 対処すべき課題

国内における主力販売チャネル（百貨店・量販店・専門店）が低迷する中、顧客の消費行動に立脚したチャネル戦略はますます重要になっています。事業規模の急激な変化に対応するため、構造改革に着手し収益構造の適正化に取り組んでおりますが、これを着実に実行していきます。また、ボリュームゾーンの低価格化にみられるような消費者ニーズの変化に対してもグループの総合力によつて的確に対応できる体制を構築していかねばなりません。

このような中で、新たな売上の柱となるべき事業に対して必要な投資は積極的に行っていきます。とりわけ海外インナーウェア事業をグループ最大の成長エンジンと位置づけており、事業拡大に向けたブランド確立と育成、そして新興国や新規市場に対する積極的投資は不可欠です。さらに戦略的な提携も視野にいたした事業展開に取り組んでまいります。

#### <ワコール事業（国内）>

##### （構造改革の推進）

国内既存インナーウェア卸事業において、事業規模の変化に対応できる収益構造へと移行するため「百貨店ビジネス改革」、「ものづくり生産性向上」、「物流の効率化」、「ビジネスインフラ改革」を軸とした構造改革を推進していきます。

##### （ブランド・チャネル戦略の再構築）

百貨店チャネルにおいては、ボリューム全体の商品配置を見直し効率的な商品開発とキャリア層の新規獲得をめざしブランドの再構築を行います。量販店チャネルにおいては、ワコールブランド、ウイングブランド、及びその他に含まれる株式会社ルシアン役割を整理し、店舗の特性に応じて商品を配備します。専門店チャネルにおいては、個々の得意先のニーズを見極め、取引条件の見直し、販促支援、グループ商材の活用など適切な支援を行っていきます。

##### （小売事業の拡大加速）

お客様や流通の変化に対応できる業態配備と商品展開を行うため、組織を見直しボリュームゾーンの商品強化と戦略的なエリアコントロールを行います。

##### （サプライチェーンマネジメントの再構築）

中国における生産に対する不安定要素とASEAN諸国の優位性向上を背景に、当社グループ全体の生産・販売インフラを活用し、新興国も含めた生産から販売における効率的なサプライチェーンマネジメントの構築に向けて取り組みを開始します。

#### <ワコール事業（海外）>

##### （米国）

新ブランドの育成や機能性を活かしたシェイプウェアの展開など商品面の拡充を行い、インターネット販売や米国を拠点として英国、カナダ、ブラジル、メキシコ等、事業展開の拡大に取り組むとともに戦略的買収も検討していきます。

(中国)

新規出店は引き続き加速するとともにブランドの認知度向上と顧客管理に取り組み、中国人間科学研究所をベースにした商品開発、さらに株式会社ルシアンとの連携による新価格帯商品の参入も検討していきます。

(ASEAN地域)

合弁先も含め、ワコールブランドの認知度向上を図り、持続的成長と安定的収益の確保に取り組みます。

(その他地域)

ドイツ、ロシアなど欧州各国やインド市場への進出に向けて、具体的な計画の策定に着手します。

<ピーチ・ジョン事業>

通信販売事業の低迷と国内直営店の不振による収益悪化の改善が何よりも大きな課題です。また、海外直営店におけるオペレーション面の安定にも課題が残っています。前期末には事業構造の改革に向けて、組織体制の見直し、事業所の集約や特別希望退職を実施しました。今後も引き続き不採算店舗の整理やコスト削減を行う一方、売上拡大に向けて販売スケジュールの見直しを行い、新ブランド・新商材開発に取り組みます。

また成長が期待できる中国ビジネスにおいては、香港・中国・日本を含めた在庫コントロール機能の整備等、ビジネスインフラを確立し売上拡大を図ります。

<その他>

(ルシアン)

安定的収益基盤確立に向けて、主要チャネルである量販店に対する新付加価値商品の展開を行います。また、当社グループとのシナジーを最大限に発揮するため、株式会社ルシアンの有する生産インフラをグループのサプライチェーンマネジメントに組み入れ、また同社の取り扱うレース材料のグループ需要も拡大していきます。また、アパレル事業においては、ワコール人間科学研究所の研究成果を基に高付加価値商品の開発に取り組み売上拡大を図ります。

(七彩)

百貨店の出店・改装需要が一段落した段階での収益力の向上が課題となります。同社のコアコンピタンスであるマネキン・ボディ・造形物のデザイン、品質を活かしたレンタル事業、物販事業の拡大に取り組みます。

株主の皆様におかれましては、なお一層の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



#### (4) 主要な事業内容

オペレーティング・セグメント	事業内容
ワコール事業（国内）	インナーウェア（主に婦人のファンデーション、ランジェリー、ナイトウェア及びリトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット、その他の繊維製品及び関連製品の製造、卸売販売及び一部製品の消費者への直接販売
ワコール事業（海外）	インナーウェア（主に婦人のファンデーション、ランジェリー、ナイトウェア及びリトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット、その他の繊維製品及び関連製品の製造、卸売販売及び一部製品の消費者への直接販売
ピーチ・ジョン事業	インナーウェア（主に婦人のファンデーション、ランジェリー、ナイトウェア及びリトルインナー）、アウターウェア、その他の繊維製品及び関連製品の製造、消費者への直接販売及び一部製品の卸売販売
その他	インナーウェア（主に婦人のファンデーション、ランジェリー、ナイトウェア及びリトルインナー）、アウターウェア、その他の繊維製品及び関連製品の製造・卸売販売、マネキン人形の製造・販売、店舗設計・施工及び不動産業他

#### (5) 主要な営業所及び工場

##### ①当社の主要な事業所及び工場

本社（京都府）

##### ②子会社の主要な事業所及び工場

㈱ワコール（京都府）、㈱ピーチ・ジョン（東京都）、㈱ルシアン（京都府）、

九州ワコール製造㈱（長崎県）、㈱七彩（京都府）、㈱トリーカ（大阪府）、

WACOAL INTERNATIONAL CORP.（米国）、WACOAL AMERICA, INC.、

WACOAL FRANCE Société Anonyme、WACOAL INTERNATIONAL HONG KONG CO., LTD.、

WACOAL HONG KONG CO., LTD.、和江留投資股份有限公司（台湾）、華歌爾（中国）時裝有限公司

## (6) 従業員の状況

### ①企業集団の従業員

オペレーティング・セグメントの名称	従業員数(名)	前期末比増減数(名)
ワコール事業(国内)	7,241	△212
ワコール事業(海外)	6,974	697
ピーチ・ジョン事業	422	△45
その他	1,346	△71
合計	15,983	369

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であります。
2. 従業員数には、臨時従業員(派遣社員、パートタイマー及びアルバイトの期中平均雇用人員 1,354名)は含んでおりません。

### ②当社の従業員

従業員数(名)	前期末比増減数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)
63	△6	47.1	22.2

(注) 従業員数は、就業人員であります。

## (7) 重要な子会社の状況

会社名	所在地	資本金	出資比率	主要事業内容	摘要
(株)ワコール	京都市南区	百万円 5,000	100.0%	衣料品の製造販売	
(株)ピーチ・ジョン	東京都渋谷区	90	100.0	衣料品の販売会社	
(株)ルシアン	京都市南区	90	100.0	衣料品及びその他繊維関連製品の製造販売	
(株)七彩	京都市右京区	498	82.1	マネキン人形及びディスプレイ器具の製造販売 店舗設計・施工	
WACOAL INTERNATIONAL CORP.	米国ニューヨーク市	千USドル 20,000	100.0	米国子会社への投資	※1
WACOAL AMERICA, INC.	米国ニューヨーク市	2,062	100.0	衣料品の製造販売	※2

(注) ※1 WACOAL INTERNATIONAL CORP. は、当社の子会社(株)ワコールが100%出資している会社であります。

※2 WACOAL AMERICA, INC. は、当社の子会社WACOAL INTERNATIONAL CORP. が100%出資している会社であります。

## 2. 会社の株式に関する事項

(1) 発行可能株式総数	500,000,000株
(2) 発行済株式の総数	143,378,085株
(3) 自己株式数	2,529,607株
(4) 株主数	14,802名
(5) 大株主の状況（上位10名）	

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン アズ デジタルリー バンク フォー デボジタリー レシート ホルダーズ	16,164千株	11.47%
株 式 会 社 三 菱 東 京 U F J 銀 行	7,006	4.97
明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会 社	6,796	4.82
野 口 美 佳	6,701	4.75
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	5,352	3.80
株 式 会 社 京 都 銀 行	4,705	3.34
第 一 生 命 保 険 株 式 会 社	3,912	2.77
株 式 会 社 滋 賀 銀 行	3,646	2.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3,301	2.34
三 菱 U F J 信 託 銀 行 株 式 会 社	3,050	2.16

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、自己株式2,529千株を控除して計算しております。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

#### (1) 当事業年度の末日に取締役が有する新株予約権の状況

発行決議日	第1回新株予約権 (平成20年7月30日取締役会)	第3回新株予約権 (平成21年7月30日取締役会)
新株予約権の数	36個(4名)	35個(4名)
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の目的となる株式数	36,000株 (新株予約権1個につき1,000株)	35,000株 (新株予約権1個につき1,000株)
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 1円	1株当たり 1円
権利行使期間	平成20年9月2日から 平成40年9月1日まで	平成21年9月2日から 平成41年9月1日まで
対象者	当社の取締役(社外取締役は除く)	当社の取締役(社外取締役は除く)

発行決議日	第5回新株予約権 (平成22年7月30日取締役会)
新株予約権の数	35個(4名)
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式数	35,000株 (新株予約権1個につき1,000株)
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 1円
権利行使期間	平成22年9月2日から 平成42年9月1日まで
対象者	当社の取締役(社外取締役は除く)

(2) 当事業年度中に子会社の役員に交付した新株予約権の状況

発行決議日	第6回新株予約権 (平成22年7月30日取締役会)
新株予約権の数	11個(3名)
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式数	11,000株 (新株予約権1個につき1,000株)
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 1円
権利行使期間	平成22年9月2日から 平成42年9月1日まで
対象者	(株)ワコールの取締役

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役及び監査役の状況（平成23年3月31日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況	摘 要
代表取締役社長	塚 本 能 交	株式会社ワコール代表取締役社長執行役員 (注6) WACOAL INTERNATIONAL CORP. 取締役会長 WACOAL AMERICA, INC. 取締役会長	株式会社ワコール 代表取締役会長
取締役副社長	川 中 英 男	経営改革担当 株式会社ワコール取締役副社長執行役員(注6) 株式会社ピーチ・ジョン代表取締役会長	株式会社ワコール 取締役副会長
取 締 役	山 本 忠 司	国際担当 株式会社ワコール取締役専務執行役員 WACOAL FRANCE Société Anonyme取締役 社長 WACOAL INTERNATIONAL HONG KONG CO., LTD. 取締役会長 華歌爾(中国)時装有限公司董事長	
取 締 役	大 谷 郁 夫	グループ管理統括担当兼経営企画部長 株式会社ワコール取締役執行役員(注6) 和江留投資股份有限公司董事長	株式会社ワコール 取締役執行役員 (3月31日辞任)
取 締 役	尾 崎 護	矢崎総業株式会社顧問 富士急行株式会社社外取締役 キッコーマン株式会社社外取締役	
取 締 役	池 田 守 男	株式会社資生堂相談役 学校法人東洋英和女学院理事長・院長 公益認定等委員会委員長 旭化成株式会社社外取締役 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 社外取締役 東京メトロポリタンテレビジョン株式 会社社外取締役	
取 締 役	堀 場 厚	株式会社堀場製作所代表取締役会長兼社長	
常 勤 監 査 役	白 石 公 明	株式会社ワコール監査役	
常 勤 監 査 役	川 島 良 雄		
監 査 役	片 柳 彰	三菱UFJニコス株式会社代表取締役会長 (注6) 株式会社百十四銀行社外監査役	三菱UFJニコス株式会社 取締役
監 査 役	久 田 友 春		公認会計士
監 査 役	竹 村 葉 子		弁護士

(注)1. 取締役尾崎 護氏、同 池田守男氏、同 堀場 厚氏の3氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

なお、社外取締役3氏が兼職する各社と当社との間には、特別の関係はありません。

2. 常勤監査役川島良雄氏は、長年に亘り当社経理部門で経理業務の経験を重ねてきており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者であります。

3. 監査役片柳 彰氏、同 久田友春氏、同 竹村葉子氏の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

なお、社外監査役片柳 彰氏が兼職する各社と当社との間には、特別の関係はありません。

4. 監査役片柳 彰氏は、金融機関で長年勤務し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者であります。

5. 監査役久田友春氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者であります。

6. 平成23年4月1日現在、重要な兼職状況に記載の役職つきましては、摘要欄のとおりとなっております。

## (2) 取締役及び監査役の報酬等の額

取締役 9名 241百万円（うち社外 4名 26百万円）

監査役 6名 53百万円（うち社外 4名 21百万円）

- (注) 1. なお、当事業年度末現在の取締役は7名（うち社外3名）、監査役は5名（うち社外3名）であります。上記の取締役及び監査役の員数と相違しておりますのは、平成22年6月29日開催の第62期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名及び監査役1名が含まれているためであります。
2. なお、報酬等の額には、以下のものが含まれております。
- ・本定時株主総会において決議予定の役員賞与14百万円（社外取締役を除く取締役14百万円）
  - ・ストック・オプションによる報酬額37百万円（社外取締役を除く取締役37百万円）

## (3) 社外取締役及び社外監査役の主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役	尾崎 護	当期開催の取締役会14回の全てに出席し、財務・中国事業に関する深い知識と経験及び幅広い社会的識見に基づいて、議案・審議について必要な発言を行っております。
取締役	池田 守男	平成22年6月29日就任以来、開催された取締役会10回のうち9回に出席し、海外事業及び経営全般に関する深い知識と経験に基づいて、議案・審議について必要な発言を行っております。
取締役	堀場 厚	当期開催の取締役会14回のうち9回に出席し、海外事業及び経営全般に関する深い知識と経験に基づいて、議案・審議について必要な発言を行っております。
監査役	片柳 彰	平成22年6月29日就任以来、開催された取締役会10回のうち9回に、同じく監査役会10回のうち9回に出席し、金融関係の深い知識に基づいて、必要な発言を行っております。
監査役	久田 友春	当期開催の取締役会14回の全てに、また監査役会15回の全てに出席し、会計及び財務について、専門的見地からの意見を述べるなど、必要な発言を行っております。
監査役	竹村 葉子	当期開催の取締役会14回のうち12回に、また監査役会15回のうち13回に出席し、弁護士としての専門的見地からの観点を含め、必要な発言を行っております。

(注) 上記取締役会の開催回数のほか、会社法第370条及び当社定款第25条の規定に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が1回ありました。

## (4) 責任限定契約に関する事項

当社は、平成17年6月29日開催の第57期定時株主総会及び平成18年6月29日開催の第58期定時株主総会で定款を変更し、社外取締役及び社外監査役の責任限定契約に関する規定を設けております。

当該定款に基づき当社が社外取締役及び社外監査役の全員と締結した責任限定契約の内容の概要は、次のとおりであります。

(責任限定契約の内容の概要)

当社は社外取締役及び社外監査役の全員と会社法第427条第1項の任務を怠ったことによる賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は法令が規定する最低責任限度額であります。

## 5. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### (2) 報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人としての報酬等	132,000千円
当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他財産上の利益の合計額	163,225千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において会社法に基づく監査と金融商品取引法等に基づく監査の監査報酬を区分しておらず、実質的にも区分できないため、これらの合計額を記載しております。

2. 当社の重要な子会社のうちWACOAL INTERNATIONAL CORP.、WACOAL AMERICA, INC. は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けております。

### (3) 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務であるIFRS導入支援、ワークグループ規程整備支援及びセキュリティ対策コンサルタント等についての対価を支払っております。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社都合の場合の他、当該会計監査人が、会社法・公認会計士法等の法令に違反・抵触した場合及び公序良俗に反する行為を行った場合、監査役会は、その事実に基づき当該会計監査人の解任又は不再任の検討を行い、解任又は不再任が妥当と判断した場合は、監査役会規則に則り「会計監査人の解任又は不再任」を監査役全員の同意にて行うか、又は株主総会の付議議案とすることを取締役会へ請求し、取締役会はそれを審議します。



## 6. 会社の体制及び方針

### (1) 業務の適正を確保する体制

#### ①取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- ・当社及びワコールグループの取締役・使用人が法令及び定款を遵守し、健全な社会規範の下に業務を執行するため、「企業倫理・ワコールの行動指針」「役員、従業員の倫理規範」を制定しています。
- ・取締役は、ワコールグループ全体における企業倫理の遵守と浸透を率先して行います。
- ・コンプライアンス体制を整備し、当社及びワコールグループに重大な影響を与えるコンプライアンス上の問題を検討するため、当社に代表取締役社長を委員長とする「企業倫理委員会」を設置しています。事務局は法務・コンプライアンス部が担当し、企業倫理の浸透と啓蒙を図ります。
- ・当社及びワコールグループの取締役・使用人が「企業倫理・ワコールの行動指針」「役員、従業員の倫理規範」に違反するおそれのあるコンプライアンス上の問題を発見した場合は、速やかに法務・コンプライアンス部へ報告する体制を確立しています。この体制には内部通報制度（企業倫理ホットライン）も含まれます。報告・通報を受けた法務・コンプライアンス部は内容を調査し、担当部門と協議のうえ再発防止策を決定します。重要な問題については企業倫理委員会へ付議し、審議結果を取締役会・監査役会へ報告します。
- ・当社では、「企業倫理・ワコールの行動指針」において反社会的勢力の要求は毅然として拒否することを定めるとともに、危機管理上の行動基準として、反社会的勢力とは一切関係を持たないことを「危機管理マニュアル」に定めています。また反社会的勢力からの不当要求に対処するために、外部専門機関との連携、反社会的勢力に関する情報の収集・管理、及び社内体制の整備を行っています。

#### ②取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・取締役会の承認の下、文書管理規程を制定しており、これにより、次に定める文書（電磁的記録を含むものとします。以下、同じ。）を関連資料とともに保存します。  
株主総会議事録、取締役会議事録、グループ経営会議議事録、取締役を最終決裁者とする書類等、その他文書管理規程に定める文書
- ・前項各号に定める文書の保管期間は10年間とします。保管場所は文書管理規程に定めるところによりますが、取締役または監査役は常時これらの文書を閲覧できます。

#### ③損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・グループの経営全般に関するリスクを把握し、リスク管理体制を整備・強化するために、管理担当取締役を委員長としてリスク管理委員会を設置しています。事務局は経営企画部が担当します。
- ・リスク管理体制の基礎として、リスク管理委員会は取締役会の承認の下、リスク管理規程を定めています。リスク管理委員会は、同規程をもとにリスクカテゴリー毎の責任体制を明らかにし、グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理するリスク管理体制を構築します。
- ・リスク管理委員会はワコールグループ全体のリスク管理体制の運営状況を定期的に取り締り会へ報告を行います。

**④取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- ・取締役の意思決定の妥当性を高めるため、取締役のうち複数名は独立社外取締役とします。
- ・取締役・使用人が共有するグループ横断的な中期経営計画を策定し、これに連動した部門毎の中期及び短期の活動方針と業績目標の設定を指示し、確認します。
- ・グループ各社の業績は月次単位で把握し、取締役会へ報告します。また、四半期毎に四半期業績確認会を開催することにより業績及び施策の実施状況を確認し、目標に未達の場合はその改善策を検討し、必要に応じて目標の見直しを行います。

**⑤当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

- ・グループ会社管理規程を制定しており、グループ会社の管理の基本方針を定めるとともに、当社取締役会で決裁する事項及び当社へ報告すべき事項を定め、この規程に従いグループ会社管理を行います。
- ・グループ会社間の取引は、公正で、法令・会計原則・税制に適合したもので行います。
- ・監査室はコンプライアンス体制やリスク管理体制の構築・運営状況の監査を含めて、グループ会社の内部監査を実施します。その結果を取締役会及び管轄部門に報告するとともに、グループ会社に対して業務の適正を確保する体制構築のための指導・助言を行います。

**⑥監査役を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項**

- ・監査役を補助するため、監査役会事務局及び監査役補助者を設置しています。
- ・監査役補助者の任命・評価・人事異動・懲戒は監査役の意見を徴集し、これを尊重します。

**⑦取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

- ・取締役または使用人は、監査役に対して法定の事項に加え、下記の事項を報告することにより、監査役の監査が実効的に行われることを目指します。
  - グループ経営会議に付議された事項
  - グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事項
  - 月次、四半期の経営状況
  - 内部監査結果
  - 重大な法令・定款違反
  - 内部通報制度への通報の状況
  - 上記の他重要な事項
- ・監査役の過半数は独立社外監査役とし、経営の透明性・中立性を高めます。
- ・監査役は監査室所属の使用人に監査業務に必要な事項を要求することができます。
- ・監査役会は、必要と認めるときは、弁護士、公認会計士、コンサルタントその他の外部アドバイザーを活用することができます。

## (2) 剰余金の配当等の決定に関する方針

株主の皆様への利益配分に関しましては、収益力向上のための積極的な投資による事業価値の向上を図りながら、1株当たり当期純利益の増加を図るとともに、連結業績を考慮しつつ安定的な配当を実施させていただくことを基本方針としています。内部留保金につきましては、事業価値向上の観点から、SPA（製造小売）による新しい売り場開発、その他の顧客との接点開発や、海外における積極的な投資に加えて、新規事業への参入や業務・資本提携といった新たな事業投資やM&Aに重点配分し、将来の収益向上を通して、株主の皆様への還元を図らせていただきたいと考えています。また、自己株式の取得を適宜行い、資本効率の向上と株主の皆様への還元を図ってまいります。

## (3) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

### ①基本方針の内容

当社は、昭和24年の創立以来、「女性に美しくなってもらおう」こと、「女性が美しくなることをお手伝いする」こと、「女性の“美しくありたい”という願いの実現に役立つ」ことを事業の目的とし、「世界のワコール」の実現を目標とした50年におよぶ長期経営計画に基づき、国内の女性インナーウェア市場の開拓から海外市場への進出、事業の確立に取り組んでまいりました。そして今日、女性インナーウェアのリーディング・カンパニーとして、国内外の多くの消費者から広く支持される企業ブランド「ワコール」を築き上げるに至っております。

当社の企業価値の源泉は、主に、(i)インティメートアパレル市場において長年にわたって培ってきた圧倒的な市場ポジショニングとブランド力、(ii)中長期的視野に立った人間科学研究の成果に基礎を置く高機能・高付加価値、そして魅力ある商品の開発力、(iii)優れた製品品質とそれを支える技術陣、高い生産性と優秀な縫製技術を有した世界的な生産・供給体制、(iv)当社と顧客をつなぐ様々な販売チャネルの取引先との密接な人的関係に支えられた信頼関係、(v)充実した商品教育を受け豊富な販売経験を有する当社のビューティアドバイザーが直接顧客に接し販売することによりもたらされる顧客からの信頼、(vi)リマンマ事業・ピンクリボン活動といった社会貢献活動の推進等を通じて築き上げられた社会からの評価等にあり、これら「ワコールの強み」が中長期的に確保され、向上させられるのでなければ、当社の企業価値・株主共同の利益は毀損されることとなります。従って、当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、これらの点を十分に理解し、当社の企業価値・株主の皆様の共同の利益を中長期的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。

当社は、当社株式について大量取得がなされる場合、これが当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。しかしながら、株式の大量取得の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買付者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

こうした事情に鑑み、当社は、当社株式に対する買付が行われた際に、買付に応じるべきか否かを当社株主が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提案するために必要な情報や時間を確保したり、当社株主のために買付者と交渉を行うこと等を可能とすることで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買付行為を抑止できる体制を平時において整えておくことが必要不可欠と考えております。

## ②取組みの具体的な内容

- ・会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み  
(企業価値向上のための取組み)

当社は、平成19年1月に「中期経営計画'07~09」を策定し、この経営計画の下、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に取り組んでまいりました。

また、さらなる企業価値の向上に向けた中長期戦略を実行するための企業活性化プロジェクト「CAP21」を推進し、持株会社体制への移行、株式会社ピーチ・ジョン及び株式会社ルシアンの子会社化並びにインナーウェア卸事業以外の領域での事業拡大等を推進してきました。

当社は、今後も引き続き、上記①記載の当社の「企業価値の源泉」である「ワコールの強み」に磨きをかけ、当社の目標である「女性に美しくなってもらおう」こと、「女性が美しくなることをお手伝いする」こと、「女性の“美しくありたい”という願いの実現に役立つ」ことを念頭において、揺るぎの無い企業ブランド「ワコール」を築き上げるべく、平成22年3月に策定した「中期経営計画'10~12」の下、(i)グループ各社が連携し、各社の強みを発揮することにより、ワコールグループとしての総合力を高めること、(ii)グループ全体の収益額の確保とその拡大のため、国内インナーウェア卸事業を中心とした構造改革に取り組むとともに、成長分野である海外事業の拡大、また、インナーウェア卸事業以外の事業領域の拡大を加速すること、(iii)グループとしての経営体制を強化すること、(iv)CSRの遂行(コンプライアンスの徹底、IR活動、社会貢献活動等)の4項目を柱として、企業価値の向上に向けた事業運営に取り組んでいきます。

- (コーポレート・ガバナンスの強化に対する取組み)

当社グループは、「株主」「顧客」をはじめとするすべてのステークホルダーの視点から、企業経営の透明性を高め、公正性、独立性を確保することを通じて企業価値の持続的な向上を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針、目的としております。

当社では、コーポレート・ガバナンスの強化に向けて、以下に示すとおり機関、体制を整備し、全社をあげて取り組んでおります。

当社の取締役会は、現在、取締役7名で構成され、経営方針、経営戦略などの重要な業務に関する事項や法令、定款で定められた事項の決定を行っております。この取締役7名のうち、3名は独立性の高い社外取締役とし、経営・事業に関する深い経験と知識に基づいて、客観的立場からの助言・指導を受けています。また、取締役の任期は1年間とし、当社経営陣の株主に対する経営責任を一層明確化しております。さらに、取締役に対する指名・昇格・報酬については、社外取締役をメンバーに含む「役員人事報酬諮問委員会」を設置し、透明性と公平性の高い運営を行っております。

当社は監査役制度を採用し、当社の監査役会は、現在、監査役5名で構成され、うち3名は社外監査役で構成し、経営に関する監視、監督機能を果たしております。

当社グループの中核事業会社である株式会社ワコールにおいては、経営の監督と執行の分離を図るため、執行役員制を導入しており、その他のグループ内各社を含めて、「グループ管理規程」「グループ経理規程」を設け、グループ内各社は両規程に基づいた事業運営を行っております。

また、当社では、当社の取締役及び監査役で構成する「グループ経営会議」を設置し、中核事業会社である株式会社ワコールの取締役・監査役及び常務執行役員で構成される「ワコール最高経営会議」との共催で、グループ経営戦略やその他の主要な経営課題に関する事項の検討、及び当社の取締役会での審議事項の事前審査を行っております。

さらに、「グループ経営会議」の傘下に、「四半期業績確認会議」を設置し、当社取締役・監査役及び当社グループの中核事業会社である株式会社ワコールの取締役・監査役・執行役員が出席して、各事業会社・事業部門の四半期ごとの業績の確認を行っております。

この他に、全社委員会として、「企業倫理委員会」「情報開示委員会」「リスク管理委員会」及びその傘下に「コンプライアンス委員会」「品質保証審議会」「事故災害対策委員会」「環境委員会」を設置し、各分野ごとの企業価値の向上及び損失の危機に関する対応に備えており、それぞれの活動状況については適宜当社取締役会において報告がなされております。

・基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として、平成18年6月29日開催の定時株主総会において、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の基本方針を決定し、同日開催の当社取締役会において具体的な対応策を決定しこれを導入しました。これらはいずれもその有効期間が約3年間の経過をもって満了したので、当社は、平成21年6月26日開催の定時株主総会において、所要の変更を加えた上、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の基本方針（以下「本買収防衛策基本方針」といいます。）の内容を決定するための議案のご承認をいただき、同日開催の当社取締役会において、本買収防衛策基本方針に基づく具体的な対応策（以下「本プラン」といいます。）を決定しこれを更新しました。

本プランは、当社の株券等に対する買付若しくはこれに類似する行為又はその提案（以下「買付等」といいます。）が行われた際、当該買付等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために、買付等を行う者（以下「買付者等」といいます。）と協議・交渉等を行うこと等を可能とするものであり、当社の企業価値・株主共同の利益を毀損する買付等を阻止し、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的としております。

本プランは、(i)当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付、又は(ii)当社が発行者である株券等について、公開買付けを行う者の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付けに該当する買付等を対象とします。

当社の株券等について買付等が行われる場合、当該買付等に係る買付者等には、買付等の内容の検討に必要な情報及び当該買付者等が買付等に際して本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面の提出を求めます。その後、買付者等から提出された情報、当社取締役会からの意見や根拠資料、当該買付等に対する代替案（もしあれば）等が、当社の業務執行を行う経営陣から独立した3名の委員から構成される独立委員会に提供され、その評価、検討を経るものとします。独立委員会は、必要に応じて、外部専門

家等の助言を独自に得た上、買付等の内容の評価・検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、買付者等との交渉、株主に対する情報開示等を行います。

独立委員会は、(A)買付者等が本プランに規定する手続を遵守しなかった場合、又は(B)買付者等の買付等の内容の検討、買付者等との協議・交渉等の結果、当該買付等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である等、本プランに定める要件のいずれかに該当し、かつ、新株予約権の無償割当てを実施することが相当と認められる場合には、当社取締役会に対して、新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。当社取締役会は、この勧告を最大限尊重して新株予約権の無償割当ての実施を決議し、別途定められる割当期日における当社の最終の株主名簿に記載又は記録された当社以外の株主に対し、その保有する当社株式1株につき新株予約権2個を上限として別途定められる割合で、新株予約権を無償で割り当てます。また、独立委員会は、買付者等による買付等が上記(A)又は(B)のいずれかに該当すると判断する場合でも、新株予約権の無償割当てを実施することについて株主総会の決議を得ることが相当であると判断するときは、当社取締役会に対してその旨勧告することができます。この場合、当社取締役会は、原則として、実務上可能な限り最短の期間で株主総会が開催できるように速やかに株主総会を招集し、新株予約権無償割当ての実施に関する議案を付議します。

上記の新株予約権は、1円を下限とし、当社株式1株の時価の2分の1の金額を上限とする金額の範囲内で、当社取締役会又は株主総会が新株予約権無償割当ての決議において定める金額を払い込むことにより、原則として当社株式1株を取得することができるものですが、買付者等一定の者（以下「非適格者」といいます。）による権利行使が認められないという行使条件が付されています。また、当社が非適格者以外の者から当社株式と引換えに当該新株予約権を取得することができる旨の取得条項が付されており、当社がかかる条項に基づく取得をする場合、新株予約権1個と引換えに、原則として当社株式1株が交付されます。

当社取締役会は、上記新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する取締役会決議又は株主総会決議が行われた場合速やかに、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と認める事項について、情報開示を行います。

本プランの有効期間は、本買収防衛策基本方針の有効期間と同様に、平成21年6月26日開催の定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとなります。但し、かかる有効期間の満了前であっても、当社株主総会において本買収防衛策基本方針を変更又は廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランは、速やかに変更後の本買収防衛策基本方針に従うよう変更又は廃止されることとなります。また、当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなります。

株主の皆様には、新株予約権無償割当てが実施されない限り、直接具体的な影響が生じることはありません。他方、本プランに従い新株予約権無償割当てが実施された場合、株主の皆様が新株予約権行使の手続を行わないとその保有する当社株式全体の価値が希釈化される場合があります（但し、当社が当社株式を対価として新株予約権の取得を行った場合、保有する当社株式全体の価値の経済的な希釈化は生じません。）。

**③上記②の取組みに対する取締役会の判断及びその判断に係る理由**

本プランは、上記②記載のとおり、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、上記①記載の基本方針に沿うものです。特に、本プランは、有効期間が約3年間と定められた上、取締役会の決議により又は株主総会における本買収防衛策基本方針の廃止の決議の結果、いつでも廃止できるとされるなど株主意思を重視するものであること、その内容として合理的な客観的要件が設定されこれが充足されなければ新株予約権の無償割当ては実施されないものとしていること、独立性の高い社外者によって構成される独立委員会が設置されており、本プランによる新株予約権無償割当ての実施に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家の助言を得ることができるとされていることなどにより、その公正性・客観性が担保されており、高度の合理性を有し、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

## 連結貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流動資産</b>	<b>90,496</b>	<b>流動負債</b>	<b>34,423</b>
現金及び現金同等物	26,981	短期借入金	6,117
定期預金	698	支払手形	1,623
有価証券	4,819	買掛金	10,507
受取手形	500	未払金	5,700
売掛金	20,371	未払給料及び賞与	6,201
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 1,549	未払税金	1,870
たな卸資産	30,956	一年以内返済予定長期債務	70
繰延税金資産	5,134	その他流動負債	2,335
その他流動資産	2,586	<b>固定負債</b>	<b>12,055</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>49,745</b>	長期債務	214
土地	21,774	退職給付引当金	2,200
建物及び構築物	60,322	繰延税金負債	7,441
機械装置及び工具器具備品等	14,023	その他	2,200
建設仮勘定	93	<b>負債合計</b>	<b>46,478</b>
減価償却累計額	△46,467	<b>資 本 の 部</b>	
<b>その他の資産</b>	<b>75,104</b>	<b>資本金</b>	<b>13,260</b>
関連会社投資	14,702	<b>資本剰余金</b>	<b>29,401</b>
投資	32,672	<b>利益剰余金</b>	<b>136,946</b>
のれん	10,367	その他の包括損益累計額	△ 9,750
その他の無形固定資産	10,325	為替換算調整勘定	△10,344
前払年金費用	158	未実現有価証券評価益	2,596
繰延税金資産	879	年金債務調整勘定	△ 2,002
その他	6,001	<b>自己株式</b>	<b>△ 2,890</b>
<b>資産合計</b>	<b>215,345</b>	<b>株主資本合計</b>	<b>166,967</b>
		<b>非支配持分</b>	<b>1,900</b>
		<b>資本合計</b>	<b>168,867</b>
		<b>負債及び資本合計</b>	<b>215,345</b>

記載金額は、百万円未満を四捨五入にて表示しております。



## 連結損益計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売上高		165,726
営業費用		
売上原価	81,895	
販売費及び一般管理費	77,804	
のれん及びその他の無形固定資産減損損失	1,772	161,471
営業利益		4,255
その他の収益・費用 (△)		
受取利息	135	
支払利息	△ 88	
受取配当金	643	
有価証券・投資有価証券売却損益	374	
有価証券・投資有価証券評価損	△ 1,585	
その他の損益 (純額)	5	△ 516
税引前当期純利益		3,739
法人税等		
当期税額	3,463	
繰延税額	△ 1,471	1,992
持分法による投資損益及び 非支配持分帰属損益調整 当期純利益		1,747
持分法による投資損益		990
当期純利益		2,737
非支配持分帰属損益		△ 122
当社株主に帰属する当期純利益		2,615

記載金額は、百万円未満を四捨五入にて表示しております。

## 連結株主持分計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位 株式数：千株、金額：百万円)

	資 本 の 部								
	社外流通 株式数	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の 包括損益 累計額	自己株式	株主資本 合計	非支配 持分	資本合計
平成22年3月31日現在	141,198	13,260	29,366	137,155	△5,619	△2,532	171,630	1,923	173,553
当期純利益				2,615			2,615	122	2,737
その他の包括利益									
為替換算調整勘定					△2,839		△2,839	△ 76	△2,915
未実現有価証券評価益					△1,073		△1,073	1	△1,072
年金債務調整勘定					△ 219		△ 219		△ 219
当社株主への現金配当 (1株当たり 20.00円)				△2,824			△2,824		△2,824
非支配持分への 現金配当								△ 70	△ 70
自己株式の取得	△ 586					△ 655	△ 655		△ 655
自己株式の売却	236					297	297		297
ストックオプションの付与			50				50		50
その他			△ 15				△ 15		△ 15
平成23年3月31日残高	140,848	13,260	29,401	136,946	△9,750	△2,890	166,967	1,900	168,867

記載金額は、百万円未満を四捨五入にて表示しております。

## 連結注記表

### (連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

#### 1. 連結計算書類の作成基準

当連結計算書類は、会社計算規則附則（平成21年法務省令第46号）第3条第1項の規定により、米国で一般に公正妥当と認められた会計基準による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しております。ただし、同項の規定に準拠して、米国において一般に公正妥当と認められた会計基準により要請される記載及び注記の一部を省略しております。

#### 2. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 47社
- (2) 主要な連結子会社 ㈱ワコール、㈱ピーチ・ジョン、㈱ルシアン、九州ワコール製造㈱、㈱七彩、  
㈱トリーカ、WACOAL INTERNATIONAL CORP.、WACOAL AMERICA, INC.、  
WACOAL FRANCE Société Anonyme、WACOAL INTERNATIONAL HONG KONG CO.,LTD.、  
WACOAL HONG KONG CO.,LTD.、和江留投資股份有限公司、華歌爾（中国）時裝有限公司

#### 3. 持分法の適用に関する事項

- (1) 関連会社の数 9社
- (2) 主要な関連会社 ㈱新栄ワコール、台湾華歌爾股份有限公司、THAI WACOAL PUBLIC CO.,LTD.

#### 4. 会計処理基準に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ①有価証券及び投資有価証券

米国財務会計基準審議会会計基準書320「投資－負債及び持分証券」の規定に準拠して、市場性のある有価証券及び投資有価証券を「売却可能有価証券」及び「売買目的有価証券」に分類し、公正価値により評価しております。これらの売却損益は移動平均法による取得原価に基づいて算出しております。

また、市場性のない有価証券の評価基準及び評価方法は移動平均法による原価法によっております。

###### ②たな卸資産

製品・商品及び仕掛品については主として総平均法、原材料については先入先出法により、いずれも低価法で評価しております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### 固定資産の減価償却方法

有形固定資産の減価償却方法は、主として定率法によっております。

無形資産の減価償却方法は、定額法によっております。なお、米国財務会計基準審議会会計基準書350「無形資産－のれん及びその他」に準拠し、耐用年数が確定できないものについては、償却を行わずに少なくとも年1回の減損テストを実施しております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

- ①貸倒引当金 売掛債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ②返品調整引当金 売上高と戻り高の対応関係を明確にするため、過去の返品率等を勘案し、将来の返品に伴う損失予想額を計上しております。
- ③退職給付引当金 米国財務会計基準審議会会計基準書715「報酬－退職給付」に準拠し、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の公正価値に基づき計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための重要な事項

①リース取引

米国財務会計基準審議会会計基準書840「リース」の規定に準拠して、キャピタルリースについてはリース物件の公正価値で資産計上し、それに対応する未払債務を計上しております。

②消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

③連結子会社の事業年度に関する事項

国内の連結子会社の決算日は、(株)ビーチ・ジョン他1社を除いて連結決算日と一致しております。(株)ビーチ・ジョン他1社の決算日は、2月28日であります。海外の連結子会社の決算日は、12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。これらの連結子会社の決算日と連結決算日である3月31日との差異期間において、財政状態及び経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。

(連結貸借対照表に関する注記)

担保に供している資産及び担保に係る債務

①担保に供している資産

土地	803	百万円
建物	460	百万円
計	1,263	百万円

②担保に係る債務

短期借入金（一年以内返済予定長期借入金含む）	563	百万円
長期債務（長期借入金）	13	百万円
計	576	百万円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、余資の資金運用については一定の条件と制限を設けて投資適格範囲を定め、安全性を重視した運用をしております。資金調達については、必要が生じた場合には銀行借入により調達いたします。デリバティブは、外貨建て取引における為替変動リスクや借入金の金利変動リスク及び保有する株式の株価変動リスクを回避するために利用する場合がありますが投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

有価証券及び投資における売却可能証券は、主に債券や投資信託及び株式であります。これらは市場価格の変動リスクがあり、定期的に公正価値の把握を実施しております。

売掛債権である受取手形及び売掛金の顧客信用リスクは、当社の管理規程に従ってリスク低減を図っております。

借入金については、一部の連結子会社による主に運転資金での資金調達であり、長期借入金については金利変動リスクを抑制するために金利スワップ取引を利用しております。

買掛債務や未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引における具体的な対象や範囲を定めた当社の取扱規程に従って行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

公正価値の見積りは、当該金融商品に関連した市場価格情報及びその契約内容を基礎として期末の一時点で見積もられたものであります。これらの見積りは実質的に当社が行っており、不確実性及び見積りに重要な影響を及ぼす当社の判断を含んでおります。このため、想定している前提条件の変更により上記の見積り公正価値は重要な影響を受ける可能性があります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(4) 信用リスクの集中

当社グループの事業は、主として日本の小売業界における多数の取引先に対する婦人下着の販売によって構成されており、その取引先には大手の百貨店、量販店及びその他の一般小売店等が含まれます。連結子会社を含めたイオングループに対する売上実績は、平成23年3月期では当社グループの売上高の約10.0%を占めます。なお、取引先1社で売上高の10%以上を構成する販売先はありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表価額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは取得原価で計上しており、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表価額 (*)	時価 (*)	差額
(1) 現金及び現金同等物	26,981	26,981	—
(2) 定期預金	698	698	—
(3) 受取手形及び売掛金	20,871	20,871	—
(4) 有価証券及び投資	34,048	34,048	—
(5) 関連会社投資	8,766	7,737	1,029
(6) 短期借入金	△ 6,117	△ 6,117	—
(7) 支払手形及び買掛金	△ 12,130	△ 12,130	—
(8) 未払金	△ 5,700	△ 5,700	—
(9) 未払税金	△ 1,870	△ 1,870	—
(10) 長期借入金	△ 213	△ 213	—
(11) デリバティブ取引	△ 25	△ 25	—

(\*) 負債に計上されているものについては、△で示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び現金同等物、(2) 定期預金、(3) 受取手形及び売掛金、(6) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資

国債及び株式の公正価値は、十分な取引量と頻度のある活発な市場における未調整の公表価格により評価しております。また、社債の公正価値については、金融機関等により評価された市場価格に基づく評価額を使用しております。

なお、有価証券及び投資は売却可能証券及び売買目的有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表価額と取得原価との差額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	種類	取得原価又は償却原価	連結貸借対照表価額	差額
連結貸借対照表 価額が取得原価 又は償却原価を 超えるもの	(1) 株式	14,835	22,336	7,501
	(2) 債券			
	① 国債・地方債	510	513	3
	② 社債	600	604	4
	③ 投資信託	2,840	2,996	156
	小計	18,785	26,449	7,664
連結貸借対照表 価額が取得原価 又は償却原価を 超えないもの	(1) 株式	7,409	6,893	△ 516
	(2) 債券			
	① 国債・地方債	—	—	—
	② 社債	700	673	△ 27
	③ 投資信託	35	33	△ 2
	小計	8,144	7,599	△ 545
合計		26,929	34,048	7,119

(5) 関連会社投資

関連会社投資の公正価値は、十分な取引量と頻度のある活発な市場における未調整の公表価格により評価しております。  
また、連結貸借対照表価額は、持分法による会計処理を行っております。

(7) 支払手形及び買掛金、(8) 未払金、(9) 未払税金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(10) 長期借入金

当期末においては、残高が少額のため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(11) デリバティブ取引

デリバティブ取引については、為替予約及び金利スワップであり、公正価値については先物為替レート及び市場金利を使用した見積りによっております。なお、ヘッジ会計が適用されているものではありません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

市場性のない有価証券への投資（連結貸借対照表価額3,443百万円）は、公正価値を容易に算定することができないため取得原価で計上しております。また、時価のない関連会社投資（連結貸借対照表価額5,936百万円）については、時価のある関連会社投資と同様に持分法による会計処理を行っております。これらの投資については、毎年あるいは必要となる事象が生じた場合に、一時的でない減損についての判定を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定

(単位：百万円)

	1年以内	5年以内	10年以内	10年超
有価証券	1,105	1,535	682	—
合計	1,105	1,535	682	—

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり株主資本	1,185円44銭
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益	18円53銭
潜在株式調整後1株当たり当社株主に 帰属する当期純利益	18円51銭

(その他の注記)

㈱ピーチ・ジョンののれん、顧客関係及び商標権（その他の無形固定資産として計上）について、当期末時点で再評価を行い、それぞれ836百万円、377百万円及び559百万円を「のれん及びその他の無形固定資産減損損失」として計上しております。

## 貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流動資産</b>	<b>5,999</b>	<b>流動負債</b>	<b>3,271</b>
現金及び預金	1,942	支払手形	1
有価証券	1,104	関係会社短期借入金	2,500
繰延税金資産	244	未払金	603
関係会社短期貸付金	1,800	未払費用	9
その他	908	未払法人税等	59
<b>固定資産</b>	<b>140,122</b>	賞与引当金	70
<b>有形固定資産</b>	<b>37,972</b>	役員賞与引当金	14
建物	17,456	その他	12
構築物	401	<b>固定負債</b>	<b>398</b>
工具、器具及び備品	1,574	その他	398
土地	18,541	<b>負債合計</b>	<b>3,670</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>587</b>	<b>純資産の部</b>	
借地権	585	<b>株主資本</b>	<b>142,418</b>
その他	1	資本金	13,260
<b>投資その他の資産</b>	<b>101,562</b>	資本剰余金	29,294
投資有価証券	3,415	資本準備金	29,294
関係会社株式	97,754	<b>利益剰余金</b>	<b>102,754</b>
繰延税金資産	178	利益準備金	3,315
その他	213	その他利益剰余金	99,439
<b>資産合計</b>	<b>146,121</b>	固定資産圧縮積立金	1,983
		別途積立金	90,000
		繰越利益剰余金	7,456
		<b>自己株式</b>	<b>△ 2,890</b>
		評価・換算差額等	△ 121
		その他有価証券評価差額金	△ 121
		<b>新株予約権</b>	<b>153</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>142,451</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>146,121</b>

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 損 益 計 算 書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		
貸 貸 収 入	4,007	
配 当 金 収 入	3,360	
そ の 他	295	7,662
営 業 費 用		
貸 貸 原 価	2,026	2,026
<b>営 業 総 利 益</b>		<b>5,636</b>
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,750	1,750
<b>営 業 利 益</b>		<b>3,885</b>
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	79	
受 取 配 当 金	8	
そ の 他	37	125
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	6	
そ の 他	4	10
<b>経 常 利 益</b>		<b>4,000</b>
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	168	168
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 売 却 損	148	
固 定 資 産 減 損 損 失	107	
投 資 有 価 証 券 評 価 損	3	
震 災 関 連 費 用	100	358
<b>税 引 前 当 期 純 利 益</b>		<b>3,810</b>
法 人 税 等		
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	143	
法 人 税 等 調 整 額	234	377
<b>当 期 純 利 益</b>		<b>3,432</b>

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算差額等		新株 予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
		資本準備金	利益準備金	その他 利益剰余金						
平成22年3月31日残高	13,260	29,294	3,315	98,835	△2,242	142,462	△ 107	△ 107	103	142,459
事業年度中の変動額										
固定資産圧縮積立金の積立				—		—				—
固定資産圧縮積立金の取崩				—		—				—
剰余金の配当				△2,828		△2,828				△2,828
当期純利益				3,432		3,432				3,432
自己株式の取得					△ 654	△ 654				△ 654
自己株式の処分					7	7				7
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)							△ 13	△ 13	49	35
事業年度中の変動額合計	—	—	—	604	△ 647	△ 43	△ 13	△ 13	49	△ 7
平成23年3月31日残高	13,260	29,294	3,315	99,439	△2,890	142,418	△ 121	△ 121	153	142,451

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(その他利益剰余金の内訳)

	固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	合計
平成22年3月31日残高	1,942	90,000	6,893	98,835
事業年度中の変動額				
固定資産圧縮積立金の積立	107		△ 107	—
固定資産圧縮積立金の取崩	△ 65		65	—
剰余金の配当			△2,828	△2,828
当期純利益			3,432	3,432
自己株式の取得				
自己株式の処分				
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)				
事業年度中の変動額合計	41	—	562	604
平成23年3月31日残高	1,983	90,000	7,456	99,439

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法  
有価証券の評価基準及び評価方法  
子会社株式及び関連会社株式は移動平均法による原価法により、その他有価証券のうち時価のあるものは期末決算日の市場価格等に基づく時価法、また時価のないものは移動平均法による原価法により評価しております。なお、その他有価証券の評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。
2. 固定資産の減価償却方法  
(1) 有形固定資産の減価償却の方法  
定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	5～50年
車両運搬具	2～4年
工具器具備品	2～20年
- (2) 無形固定資産の減価償却の方法  
定額法によっております。
3. 引当金の計上基準  
(1) 賞与引当金 従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。  
(2) 役員賞与引当金 役員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項  
(1) リース取引の処理方法 ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。ただし、少額のファイナンス・リース取引及びファイナンス・リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。  
(2) 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。
5. 資産除去債務に関する会計基準等の適用  
当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。なお、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。

### (貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	28,353百万円
2. 関係会社に対する短期金銭債権	2,129百万円
関係会社に対する短期金銭債務	2,590百万円

### (損益計算書に関する注記)

関係会社に対する売上高	7,516百万円
関係会社とのその他の営業取引高	83百万円
関係会社との営業取引以外の取引高	24百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当事業年度の末日における発行済株式の数  
普通株式 143,378,085株
2. 当事業年度の末日における自己株式の数  
普通株式 2,529,607株
3. 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年5月11日 取締役会	普通株式	2,828	20.00	平成22年3月31日	平成22年6月7日

4. 当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	2,816	20.00	平成23年3月31日	平成23年6月6日

5. 当事業年度の末日における新株予約権に関する事項

	第1回 平成20年7月30日 取締役会決議分	第2回 平成20年7月30日 取締役会決議分	第3回 平成21年7月30日 取締役会決議分	第4回 平成21年7月30日 取締役会決議分
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式	普通株式
目的となる株式の数	36,000株	17,000株	35,000株	14,000株
新株予約権の残高	36個	17個	35個	14個

	第5回 平成22年7月30日 取締役会決議分	第6回 平成22年7月30日 取締役会決議分
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
目的となる株式の数	35,000株	11,000株
新株予約権の残高	35個	11個

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産の発生の主な原因  
関係会社株式評価損 2,480百万円  
賞与引当金 28百万円  
減価償却超過額及び減損損失 1,020百万円  
その他 496百万円  
繰延税金資産小計 4,025百万円  
評価性引当額 △2,237百万円  
繰延税金資産合計 1,787百万円
2. 繰延税金負債の発生の主な原因  
固定資産圧縮積立金 1,361百万円  
その他 3百万円  
繰延税金負債合計 1,364百万円  
繰延税金資産の純額 422百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社等

種類	会社等の名称	議決権等の被所有割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	㈱ワコール	所有 直接100	株式の保有 役員の兼任 経営指導 動産・不動産賃貸	資金の返済 (注1)	500	関係会社短期借入金	2,500
				利息の支払い (注1)	6	未払金	1
				配当の受取	3,000	—	—
				動産・不動産賃貸 (注2)	2,975	未収金	247
				経営指導料 (注3)	290	—	—
				業務受託手数料 (注3)	43	—	—
子会社	ワコール流通㈱	所有 直接100	株式の保有 役員の兼任 動産・不動産賃貸	配当の受取	180	—	—
				不動産賃貸 (注2)	614	—	—
子会社	㈱ルシアン	所有 直接100	株式の保有 役員の兼任	資金の貸付 (注4)	1,800	関係会社短期貸付金	1,800
				利息の受取 (注4)	17	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資金の借入・利息の支払いについては、市場金利を勘案して決定しております。

(注2) 価格その他の取引条件は、市場実態を勘案して価格交渉の上で決定しております。

(注3) 経営指導料・業務受託手数料については、每期交渉の上、決定しております。

(注4) 資金の貸付・利息の受取については、市場金利を勘案して決定しております。

(注5) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	1,010円29銭
1株当たり当期純利益	24円30銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	24円28銭

## 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

### 独立監査人の監査報告書

平成23年5月14日

株式会社 ワコールホールディングス  
取締役会 御中

#### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大西 康弘<sup>Ⓜ</sup>

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佃 弘一郎<sup>Ⓜ</sup>

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 下井田 晶代<sup>Ⓜ</sup>

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ワコールホールディングスの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主持分計算書及び連結注記表について監査を行った。この連結計算書類の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、会社計算規則附則（平成21年法務省令第46号）第3条第1項の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（連結注記表 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記1. 参照）に準拠して、株式会社ワコールホールディングス及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

### 独立監査人の監査報告書

平成23年5月14日

株式会社 ワコールホールディングス  
取締役会 御中

#### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大西 康 弘<sup>Ⓜ</sup>

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佃 弘 一 郎<sup>Ⓜ</sup>

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 下井田 晶代<sup>Ⓜ</sup>

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ワコールホールディングスの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第63期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告書 謄本

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第63期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主持分計算書及び連結注記表）について検討いたしました。



## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。
- 四 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成23年5月18日

株式会社 ワコールホールディングス 監査役会

常勤監査役 白石公明<sup>㊟</sup>

常勤監査役 川島良雄<sup>㊟</sup>

監査役 片柳 彰<sup>㊟</sup>

監査役 久田友春<sup>㊟</sup>

監査役 竹村葉子<sup>㊟</sup>

(注) 監査役片柳 彰、久田友春及び竹村葉子は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案および参考事項

#### 第1号議案 取締役8名選任の件

取締役7名全員は本総会終結の時をもって任期満了となりますので、経営陣の強化を図るため取締役1名を増員して、取締役8名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	候補者の有する 当社の株式数
1	つかもと よしかた 塚本 能 交 (昭和23年1月29日生)	昭和47年4月 当社入社 昭和52年11月 当社取締役 昭和56年11月 当社常務取締役 昭和59年9月 当社取締役副社長 昭和59年9月 当社代表取締役(現任) 昭和62年6月 当社取締役社長(現任) 平成14年6月 当社執行役員 平成17年10月 株式会社ワコール代表取締役社長執行役員 平成23年4月 株式会社ワコール代表取締役会長(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社ワコール代表取締役会長 WACOAL INTERNATIONAL CORP. 取締役会長 WACOAL AMERICA, INC. 取締役会長	1,351,136株
2	かわなか ひでお 川中 英 男 (昭和17年6月25日生)	昭和40年4月 株式会社伊勢丹入社 平成4年6月 同社取締役松戸店長 平成5年7月 株式会社J R西日本伊勢丹代表取締役社長 平成13年6月 オムロン株式会社執行役員常務経営総務室長 平成16年6月 株式会社松坂屋代表取締役専務営業統括本部長 平成19年6月 当社顧問 平成19年6月 当社専務取締役 平成19年11月 株式会社ワコール取締役専務執行役員 平成20年4月 同社取締役副社長執行役員 平成21年6月 当社取締役副社長経営改革担当(現任) 平成23年3月 株式会社ピーチ・ジョン代表取締役会長(現任) 平成23年4月 株式会社ワコール取締役副会長(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社ワコール取締役副会長 株式会社ピーチ・ジョン代表取締役会長	10,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	候補者の有する 当社の株式数
3	おおたに いくお 大谷 郁夫 (昭和28年11月20日生)	昭和51年3月 当社入社 平成16年6月 当社執行役員経営管理部長 平成18年6月 株式会社ワコール取締役執行役員・経営管理担当 平成20年4月 株式会社ワコール取締役執行役員・総合企画室長 平成22年4月 株式会社ワコール取締役執行役員・経理担当 兼当社経営企画部長 平成22年6月 当社取締役グループ管理統括担当 兼経営企画部長（現任）  (重要な兼職の状況) 和江留投資股份有限公司董事長	5,000株
4	やすはら ひろのぶ 安原 弘展 (昭和26年12月28日生)	昭和50年3月 当社入社 平成8年9月 廣東華歌爾時裝有限公司副總經理 平成9年4月 華歌爾（中国）時裝有限公司總經理 平成16年4月 当社ウイングブランド事業本部企画商品グループ長 平成17年4月 当社執行役員ウイングブランド事業本部長 平成18年4月 株式会社ワコール常務執行役員同本部長 平成18年6月 同社取締役常務執行役員同本部長 平成20年4月 同社取締役専務執行役員同本部長 平成21年8月 同社取締役専務執行役員同本部長 兼株式会社ルシアン代表取締役会長（非常勤） 平成22年4月 株式会社ワコール取締役専務執行役員 ワコールブランド事業本部長 平成23年4月 株式会社ワコール代表取締役社長執行役員（現任）  (重要な兼職の状況) 株式会社ワコール代表取締役社長執行役員	4,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	候補者の有する 当社の株式数
5	<p style="text-align: center;">やまもと      ただし 山本 忠司 (昭和27年11月14日生)</p>	<p>昭和51年3月 当社入社 平成14年4月 当社人事部長 平成14年6月 当社執行役員 平成17年10月 株式会社ワコール執行役員 平成18年4月 当社人事総務部長 平成18年4月 株式会社ワコール常務執行役員 平成18年6月 株式会社ワコール取締役常務執行役員 平成18年6月 当社取締役 平成20年4月 当社取締役国際担当（現任） 平成20年4月 株式会社ワコール取締役専務執行役員（現任）</p> <p>（重要な兼職の状況） 株式会社ワコール取締役専務執行役員 WACOAL FRANCE Société Anonyme取締役社長 WACOAL INTERNATIONAL HONG KONG CO., LTD. 取締役会長 華歌爾（中国）時装有限公司董事長</p>	9,000株
6	<p style="text-align: center;">おざき      まもる 尾崎 護 (昭和10年5月20日生)</p>	<p>平成3年6月 国税庁長官 平成4年6月 大蔵事務次官 平成6年5月 国民金融公庫総裁 平成11年10月 国民生活金融公庫総裁 平成15年2月 矢崎総業株式会社顧問（現任） 平成15年7月 当社顧問 平成17年6月 当社取締役（現任）</p> <p>（重要な兼職の状況） 矢崎総業株式会社顧問 富士急行株式会社社外取締役 キッコーマン株式会社社外取締役</p>	0株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	候補者の有する 当社の株式数
7	いけだ もりお 池田 守 男 (昭和11年12月25日生)	昭和36年4月 株式会社資生堂入社 平成2年4月 同社取締役秘書室長 平成7年4月 同社常務取締役 平成9年6月 同社代表専務取締役 平成12年6月 同社代表取締役副社長 平成13年6月 同社代表取締役社長 平成17年6月 同社取締役会長 平成18年6月 同社取締役会長(退任)、相談役(現任) 平成22年6月 当社取締役(現任)  (重要な兼職の状況) 株式会社資生堂相談役 学校法人東洋英和女学院理事長・院長 公益認定等委員会委員長 旭化成株式会社社外取締役 株式会社三越伊勢丹ホールディングス社外取締役 東京メトロポリタンテレビジョン株式会社社外取締役	0株
8	ほりば あつし 堀場 厚 (昭和23年2月5日生)	昭和47年9月 株式会社堀場製作所入社 昭和57年6月 同社取締役海外本部長 昭和63年6月 同社専務取締役営業本部長 平成4年1月 同社代表取締役社長 平成17年6月 同社代表取締役会長兼社長(現任) 平成20年6月 当社取締役(現任)  (重要な兼職の状況) 株式会社堀場製作所代表取締役会長兼社長	3,000株

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 尾崎 護氏、池田守男氏及び堀場 厚氏の3氏は、会社法施行規則第2条第3項第7号に定める社外取締役の候補者であります。
3. 社外取締役候補者に関する特記事項は以下のとおりであります。
- (1) 社外取締役候補者の選任理由および当該社外取締役候補者が社外取締役に就任してからの年数について
- ①尾崎 護氏を社外取締役候補者とした理由は、同氏は金融行政をはじめとして豊富なキャリアと専門的な知識を有されており、その経験を当社の経営の透明性、客観性の向上にいかしていただきたいためであります。  
なお、同氏の当社社外取締役在任期間は本総会終結の時をもって、6年となります。
- ②池田守男氏を社外取締役候補者とした理由は、同氏は国内および海外事業展開において経営者として豊富な経験と見識を有されており、その強い指導力と知識を当社の海外事業展開強化にいかしていただきたいためであります。  
なお、同氏の当社社外取締役在任期間は本総会終結の時をもって、1年となります。
- ③堀場 厚氏を社外取締役候補者とした理由は、同氏は国内および海外事業展開において経営者として豊富な経験と見識を有されており、その強い指導力と知識を当社の海外事業展開強化にいかしていただきたいためであります。  
なお、同氏の当社社外取締役在任期間は本総会終結の時をもって、3年となります。

(2) 社外取締役候補者が過去5年間に他の会社の社外取締役又は社外監査役に就任していた場合において、その在任中に当該会社において不当な業務執行が行われた事実、並びに当該候補者がその事実の発生予防および発生後の対応として行った行為について

①池田守男氏が社外取締役を兼任している株式会社三越伊勢丹ホールディングス（以下、「同社」という。）において、平成19年12月から平成20年7月にかけて、同社の子会社である株式会社伊勢丹（以下、「同子会社」という。）が「カシミア50%、シルク50%」と表示のうえ展開販売した婦人ストールにカシミアが含まれていなかった問題について、同子会社は、平成20年12月10日、公正取引委員会より、不当景品類及び不当表示防止法第4条第1項の不当表示に該当するものとして排除命令を受けました。同氏は、社外取締役として日頃から同社取締役会において、法令遵守の視点に立った提言を行い、事態判明後においても同社取締役会での審議を通じて、同社及び同子会社を含む同社グループにおける再発防止に向けた法令遵守体制・内部管理体制の強化や社員教育の徹底を推進するなどその職責を果たしております。

②池田守男氏が社外取締役を兼任しておりました株式会社小松製作所（以下、「同社」という。）において、証券取引法第175条第7項において準用する同条第1項に規定する売買等をした行為について、平成19年3月9日付証券取引等監視委員会による金融庁に対する同社の内部取引に係る課徴金納付命令の勧告を受けました。同氏は、社外取締役として当該事実の報告を受け、今後の発生予防等について審議等を行いその職責を果たしております。

③堀場 厚氏が代表取締役会長兼社長である株式会社堀場製作所は、官公庁発注の大气常時監視自動計測器（大气汚染監視装置）についての入札において、独占禁止法に違反する行為を行っていたとして、平成20年11月12日付で公正取引委員会から排除措置命令および課徴金納付命令（合計3,706万円）を受けております。

(3) 社外取締役との責任限定契約について

当社は社外取締役として有能な人材を迎えることができるよう、社外取締役との間で、当社への損害賠償責任を一定範囲に限定する契約を締結できる旨を定款に定めており、社外取締役候補者尾崎 護氏、池田守男氏、堀場 厚氏は、当社との間で当該責任限定契約を締結しております。

本総会において、尾崎 護氏、池田守男氏、堀場 厚氏の再任が原案どおり承認された場合、当社は各氏との間にて当該責任限定契約を継続する予定であります。

社外取締役との責任限定契約の概要は次のとおりであります。

- ・社外取締役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第427条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う。
- ・上記の責任限定が認められるのは、社外取締役がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。

**第2号議案 監査役2名選任の件**

監査役白石公明氏、監査役久田友春氏は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役2名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位および重要な兼職の状況	候補者の有する 当社の株式数
1	やまもと みつお 山本三雄 (昭和30年1月8日生)	昭和52年4月 当社入社 平成17年4月 当社人事部長 平成20年4月 株式会社ワコール執行役員 平成23年4月 同社執行役員(退任) 平成23年4月 当社人事企画部長(現任)	0株
2	く だ ともはる 久田友春 (昭和21年12月7日生)	昭和47年9月 デロイト・ハスキング・アンド・セルズ公認会計士事務所入所 昭和54年10月 公認会計士登録 昭和62年9月 英国ロンドン事務所に駐在 平成2年2月 監査法人トーマツと合併、社員 平成9年6月 同監査法人代表社員 平成19年7月 当社監査役(現任)	0株

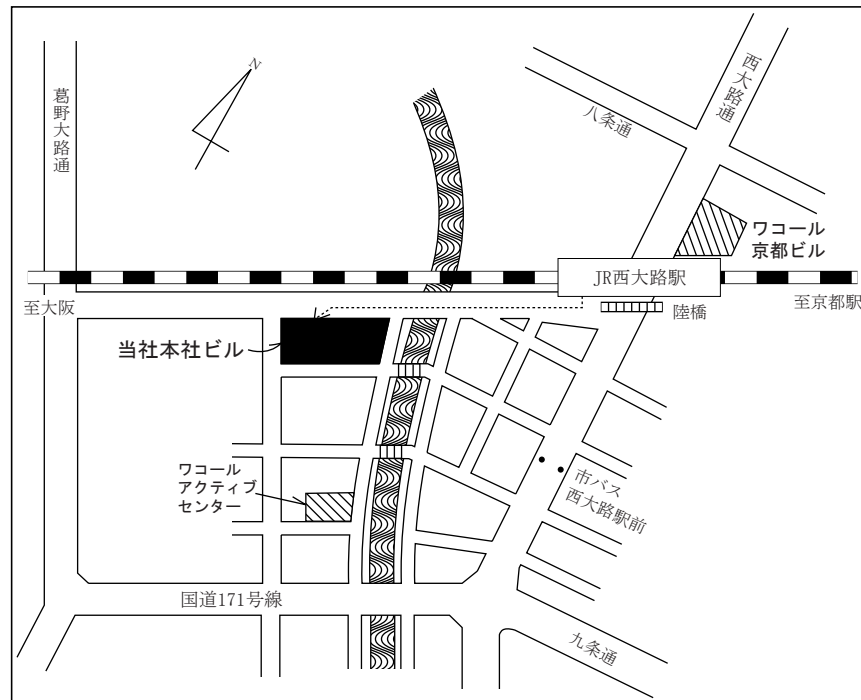
- (注) 1. 各監査役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 久田友春氏は、会社法施行規則第2条第3項第8号に定める社外監査役候補者であります。
3. 久田友春氏を社外監査役候補者とした理由は、同氏の公認会計士としての米国会計基準を含む会計・財務の専門的な知識・経験等を当社の監査体制にいかしていただきたいためであります。
- なお、同氏は、過去に社外監査役となること以外の方法で、会社経営に関与したことはありませんが、上記の理由により社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。
4. 久田友春氏は、現在、当社の社外監査役であります。社外監査役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。
5. 社外監査役との責任限定契約について
- 当社は社外監査役として有能な人材を迎えることができるよう、社外監査役との間で、当社への損害賠償責任を一定範囲に限定する契約を締結できる旨を定款に定めており、社外監査役候補者久田友春氏は、当社との間で当該責任限定契約を締結しております。本総会において、同氏の再任が原案どおり承認された場合、当社は同氏との間にて当該責任限定契約を継続する予定であります。
- 社外監査役との責任限定契約の概要は次のとおりであります。
- ・社外監査役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第427条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う。
  - ・上記の責任限定が認められるのは、社外監査役がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。

**第3号議案 役員賞与支給の件**

当事業年度末時点の取締役のうち、社外取締役を除く4名に対し、当事業年度の業績等を勘案して役員賞与総額1,450万円を支給することといたしたいと存じます。

以 上

### 株主総会会場ご案内図



JR西大路駅前西入 徒歩3分  
駐車スペースがございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

